

秋の夜に響く弦の調べ、身動きもせず聴き入りました



今年で8回目を迎える「加藤玲名ヴァイオリンコンサート」が、10月31日（木）午後6時半から外来ホールで開催されました。

バイオリンの小品や童謡、テレビで話題の曲など毎回素敵な曲をこれまで演奏されてきましたが、今回初めて本格的なクラシック曲、ブラームス作曲『バイオリンソナタ第2番作品100』を披露してくださいました。

マイクなしの生のバイオリンの響きと、高度なテクニックのピアノ伴奏（鹿目純子さん）…。第1楽章から第3楽章まで、美しく

心地よいメロディーに誘われるように、会場に集まったみなさんは20分を超える曲を身動きもせず聴き入りました。演奏後に加藤さんは「こちらで本格的な曲を演奏するのは初めてですが、聴いていただいてありがとうございます」とご挨拶。クラシックというよりバイオリンの生演奏を聴くのが初めて、という患者さんも中にはいらっしゃいました。リハーサル中の音を聴いた会計待ちの方は

「思いがけなく初めてのバイオリンが聴けて良かった」と拍手を送りながら帰って行かれました。また「今日が退院の日でしたが、ちょっと延びてしまって。でも、おかげでバイオリンが聴けて嬉しい!」「G線上のアリアを弾いている指をじっと見ていました。生のバイオリンに涙が出ました」との声や、「生演奏ならではの音色の美しさを感じることができ、感激しました」と勤務後の病院スタッフからの感想も。加藤さん、鹿目さん、心に残る素晴らしい演奏をありがとうございました。

